

4 配偶者等からの被害経験

現在または過去に配偶者や恋人がいる（いた）人（3,123人）に、3つの行為をあげて、配偶者や恋人から受けたことがあるかを聞いた（図4-1）。

まず、これまでに“なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた”ことが「1、2度あった」という人は9.1%で、「何度もあった」（3.1%）という人を合わせると、これまでに身体的暴行を受けたことがある人は1割強である。

さらに、これまでに“身体に対する暴行を受けた”ことがある人（379人）に、この1年間にしぼって聞いたところ、「1、2度あった」という人は19.0%で、「何どもあった」（5.0%）という人を合わせると、ほぼ4人に1人がこの1年間にも身体的暴行を受けている。

“あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが「1、2度あった」という人は2.9%で、「何どもあった」（0.9%）を合わせても4%程度にとどまり、「まったくない」（85.2%）という人が多数を占める。

これまでに“恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことがある人（121人）に、この1年間の状況を聞いたところ、「1、2度あった」人が14.0%で、「何どもあった」人（8.3%）を合わせると被害経験者は2割を上回る。

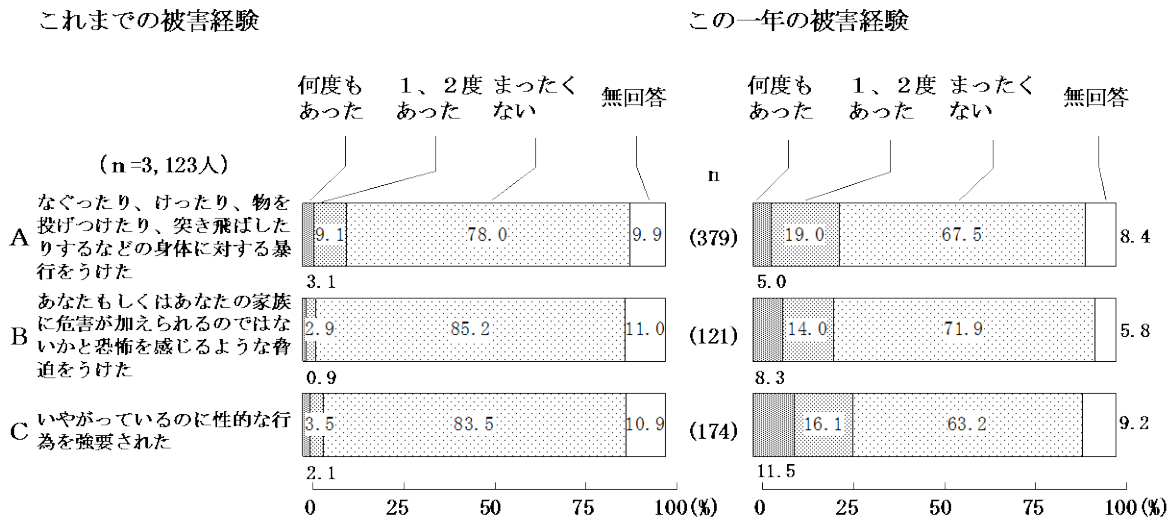
最後に、これまでに“いやがっているのに性的な行為を強要された”ことが「1、2度あった」人は3.5%で、「何どもあった」人（2.1%）を合わせると、約6%の人が性的強要の被害経験を持つ。

“性的な行為を強要された”ことがあった人（174人）のこの1年間の経験をみると、「何どもあった」（11.5%）と答えた頻度の高い人が1割強で、「1、2度あった」（16.1%）という人を合わせると、3割近くがこの1年間にも被害経験を持っている。

【問9で、配偶者や恋人が「1 現在いる」「2 過去にいたが、現在はいない」と答えた方に、お聞きします。】

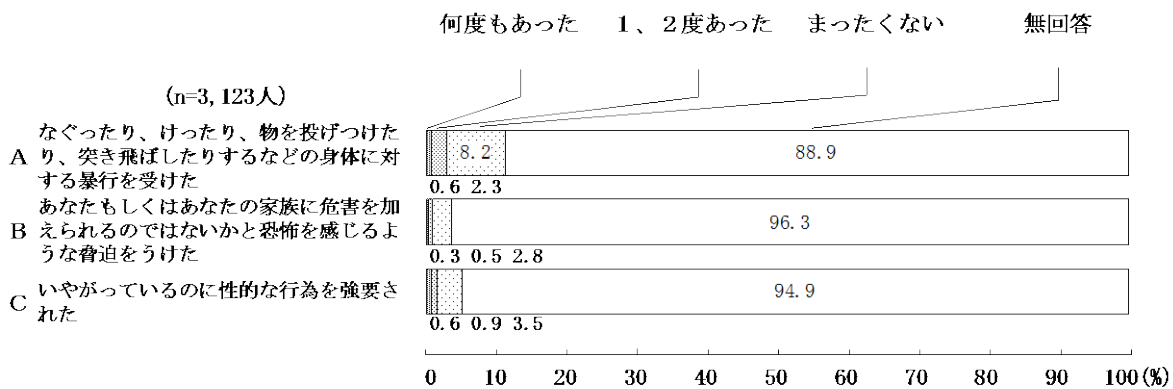
問11 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人関係にあった者から次のようなことをされたことがありますか。AからCについて1、2、3のいずれか1つに○をつけてください。また、これまでに「2 1、2度あった」「3 何度もあった」という人は、この1年についてもお答えください。
(○はそれぞれ1つずつ)

図4-1 配偶者等からの被害経験



この1年間の被害経験の有無を回答者全体(3,123人)でみると(図4-2)、「あった」もしくは「1、2度あった」と答えた、この1年間に配偶者や恋人からの被害経験が『あった』人は、“身体に対する暴行”で2.9%、“恐怖を感じるような脅迫”で0.9%、“性的な行為の強要”が1.5%である。

図4-2 配偶者等からの被害経験(回答者全体ベース) - この1年

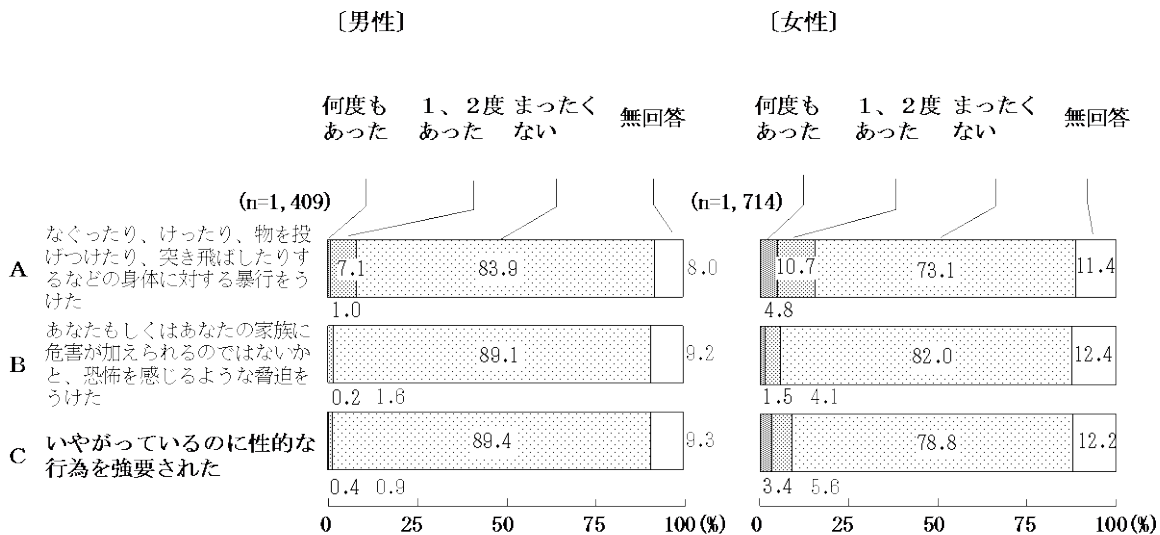


これまでの配偶者や恋人からの暴力の経験を男女別にみると（図4-3）、「身体に対する暴行を受けた」ことが『あった』人は女性（「1、2度」10.7%+「何でも」4.8%）で15.5%と、男性（同7.1%+1.0%）を7ポイント上回っている。

“恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが「1、2度あった」（男性1.6%、女性4.1%）もしくは「何でもあった」（同0.2%、1.5%）という人は男性1.8%、女性5.6%で、女性の被害率がやや高くなっている。

“いやがっているのに性的な行為を強要された”ことが『あった』人は、男性（「1、2度」0.9%+「何でも」0.4%）で1%程度であるのに対して、女性（同5.6%+3.4%）では1割弱と、9ポイントの開きがみられる。

図4-3 配偶者等からの被害経験—これまで（男女別）

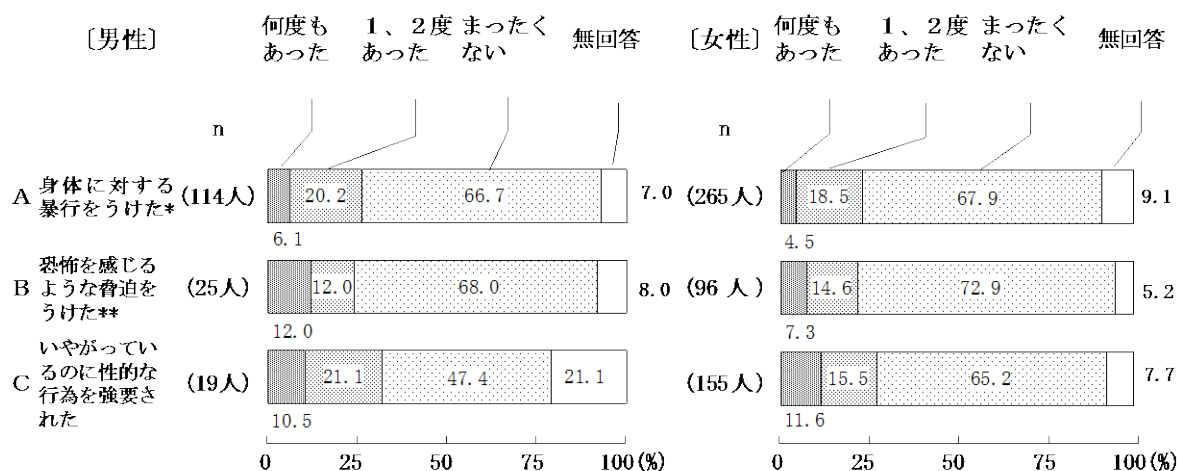


これまでに配偶者や恋人からの暴力を受けたことがある人の、この1年間の状況をみると(図4-4)、この1年間に“身体に対する暴行を受けた”ことが『あった』人は、男性(「1、2度」20.2%+「何度も」6.1%)、女性(同18.5%+4.5%)ともに2割台で、男性が女性を3ポイント上回っている。

“恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが、「1、2度あった」女性は14.6%で、「何度もあった」人(7.3%)を合わせると、2割強がこの1年間に心理的脅迫の被害をうけている。

“いやがっているのに性的な行為を強要された”ことがこの1年間に「何どもあった」(11.6%)と答えた被害の頻度の高い女性は1割強おり、「1、2度あった」人(15.5%)を合わせると、女性の3割弱がこの1年間にも性的強要の経験を持つ。

図4-4 配偶者等からの被害経験—この1年間(男女別)

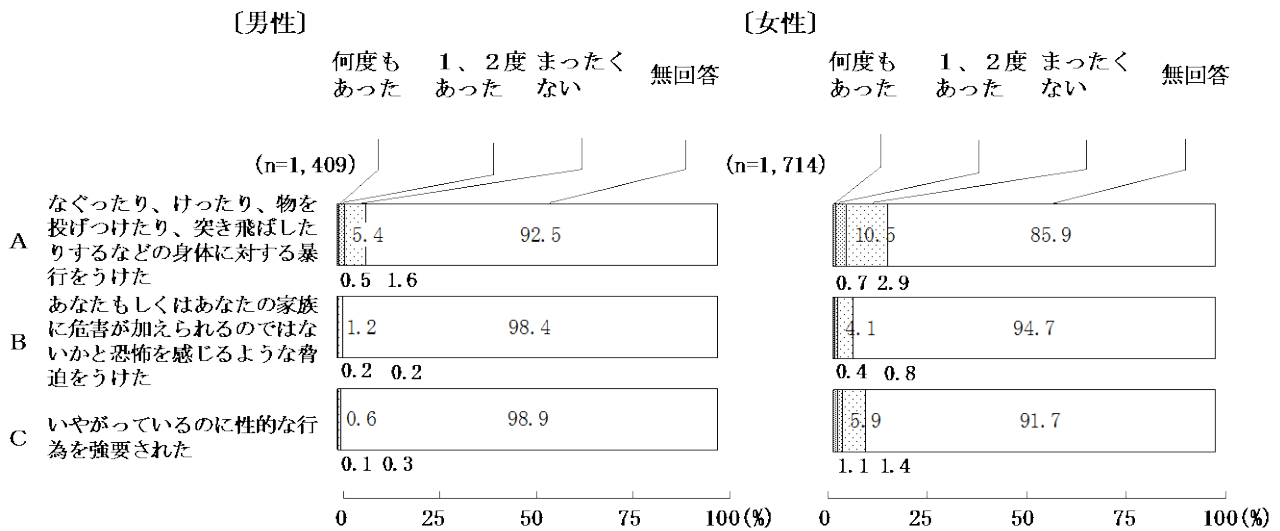


*なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

**あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

この1年間の被害経験の有無を回答者全体でみると（図4-5）、この1年間に配偶者や恋人からの被害経験が『あった』人は、“身体に対する暴行”が男性2.1%、女性3.6%、“恐怖を感じるような脅迫”が男性0.4%、女性1.2%、“性的な行為の強要”が男性0.4%、女性2.5%である。

図4-5 配偶者等からの被害経験（回答者全体ベース）—この1年間（男女別）

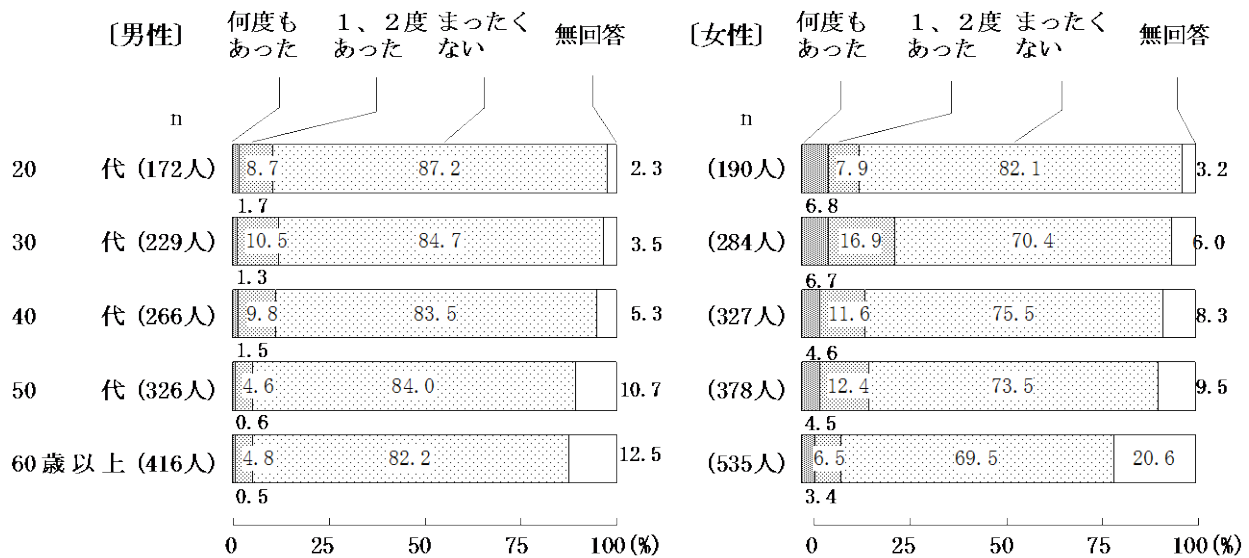


配偶者や恋人からの暴力の被害経験を性・年齢別にみると（図4-6），“身体に対する暴行をうけた”ことが『あった』人は、女性の30代（「1、2度」16.9%+「何度も」6.7%）でほぼ4人に1人の割合と、他の性・年齢層より多くなっている。また、身体的暴行の被害経験を持つ人は30代と50代で、女性が男性を10ポイント以上上回って多く、男女差が大きくなっている。

“恐怖を感じるような脅迫をうけた”経験は、各年齢層で男性より女性にわずかに多くなっている。また、“性的な行為を強要された”ことが『あった』人は、女性の30～50代で1割と、やや多くなっている。

図4-6 配偶者等からの被害経験—これまで（性・年齢別）

身体に対する暴行をうけた



恐怖を感じるような脅迫をうけた

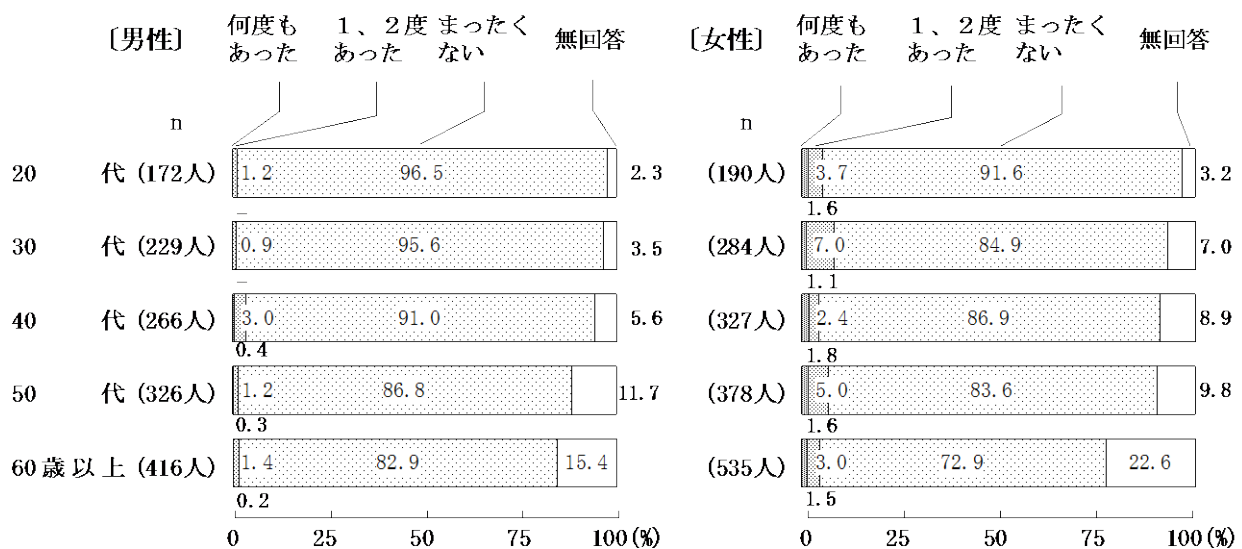
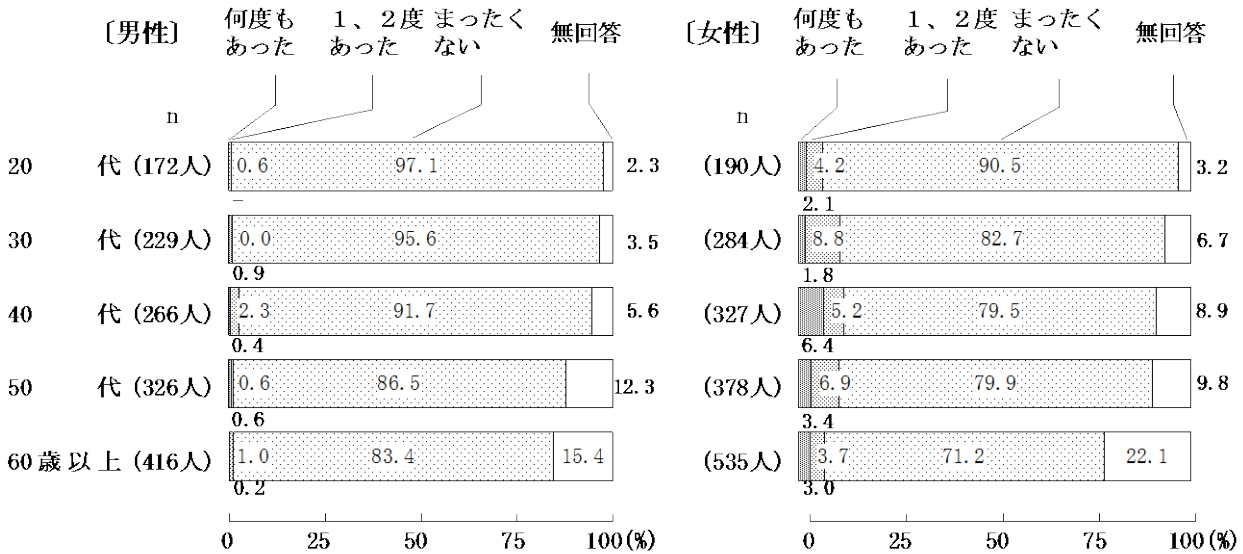


図4-6・つづき

いやがっているのに性的な行為を強要された



配偶者や恋人から受けた「身体に対する暴行」「恐怖を感じるような脅迫」「性的な行為の強要」といった行為の重複をみると（表4-1）、「身体的暴行のみ」（7.3%）である人が1割弱である。

男女別にみると（表4-1）、「身体的暴行のみ」（男性6.6%、女性7.8%）という者が、男女とも1割弱となっており、男性ではそれ以外の被害経験は1%に満たない。これに対して、女性では「身体的暴行・心理的脅迫・性的強要」（3.1%）、「身体的暴行と性的強要」（2.9%）と「性的強要のみ」（2.8%）といった、性的強要を含めた被害経験をもつ人が3%程度いる。

表4-1 配偶者等からの被害の重複

(%)

	n	身体的暴行のみ	心理的脅迫のみ	性的強要のみ	身体的暴行と心理的脅迫	心理的脅迫と性的強要	身体的暴行と性的強要	身体的暴行・心理的脅迫・性的強要	まったくない	無回答
総数	3,123	7.3	0.6	1.8	1.2	0.1	1.8	1.9	74.9	10.4
男性	1,409	6.6	0.6	0.6	0.7	-	0.4	0.4	81.9	8.8
女性	1,714	7.8	0.6	2.8	1.6	0.2	2.9	3.1	69.2	11.7

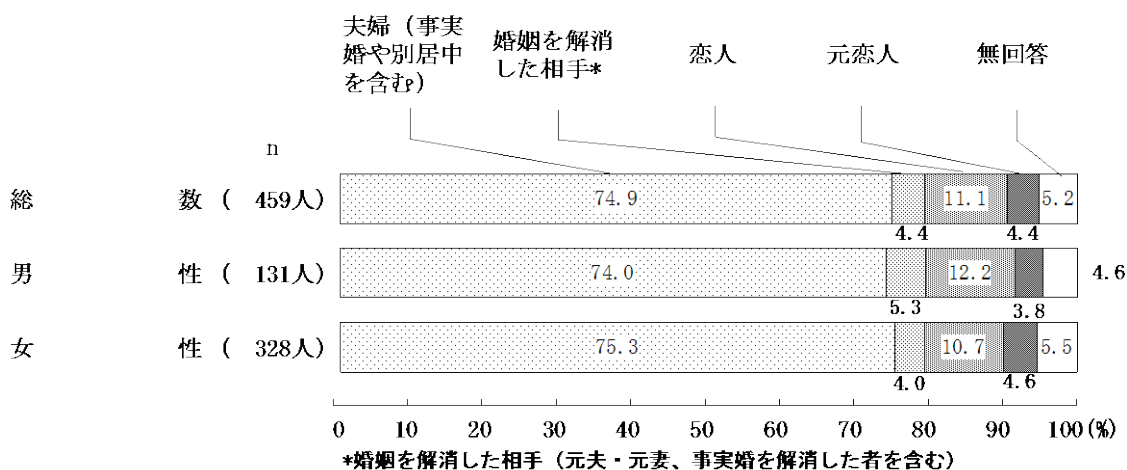
配偶者や恋人から“身体に対する暴行”“恐怖を感じるような脅迫”“性的な行為の強要”といった行為を受けたことのある人（459人）に、自分に対して最後にそういった行為をした相手との当時の関係を聞いたところ（図4-7）、「夫婦（事実婚や別居中を含む）」（74.9%）と答えた人が4人に3人と多数を占め、「恋人」（11.1%）が1割強で続いている。

男女別にみても、加害者との関係に大きな男女差はみられない（図4-7）。

【付問1～9は、問11でAからCのうち、これまでに1つでも「2 1、2度あった」「3 何度もあった」と回答した方にお聞きします。すべて「1 まったくない」と答えた方は、9ページの間12へお進みください。】

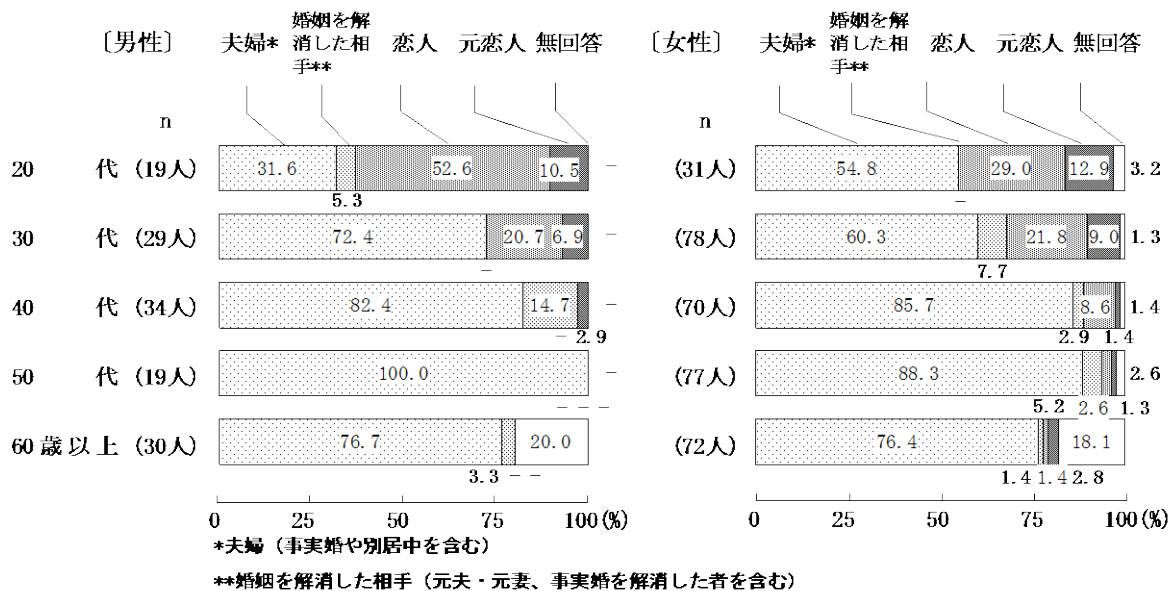
付問1 あなたに対して、最後に問11のA～Cのような行為をした相手は、当時、あなたとどのような関係でしたか。あてはまる番号に○をつけてください。（○は1つ）

図4-7 加害者との当時の関係



該当者数は小さくなるが性・年齢別にみると（図4-8）、女性の20代から30代では「夫婦」（20代54.8%、30代60.3%）が5～6割で、「恋人」（同29.0%、21.8%）が2～3割、「元恋人」（同12.9%、9.0%）が1割前後であるが、40代以上になると「夫婦」の占める割合が際立って高くなる。

図4-8 加害者との当時の関係（性・年齢別）

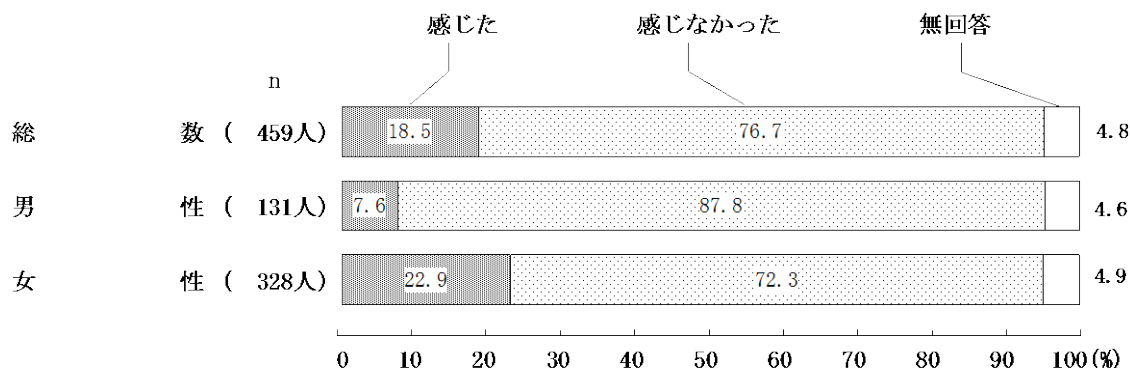


配偶者や恋人からの行為によって命の危険を「感じた」（18.5%）という人は2割弱で、76.7%は「感じなかった」と答えている（図4-9）。

男女別にみると（図4-9）、命の危険を「感じた」人は男性7.6%、女性22.9%で、女性が男性を15ポイント上回っている。

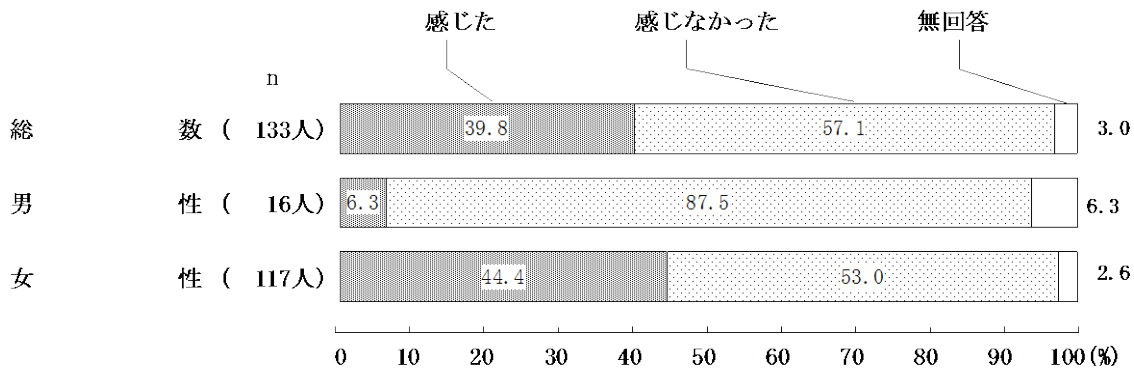
付問2 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。（○は1つ）

図4-9 命の危険を感じた経験



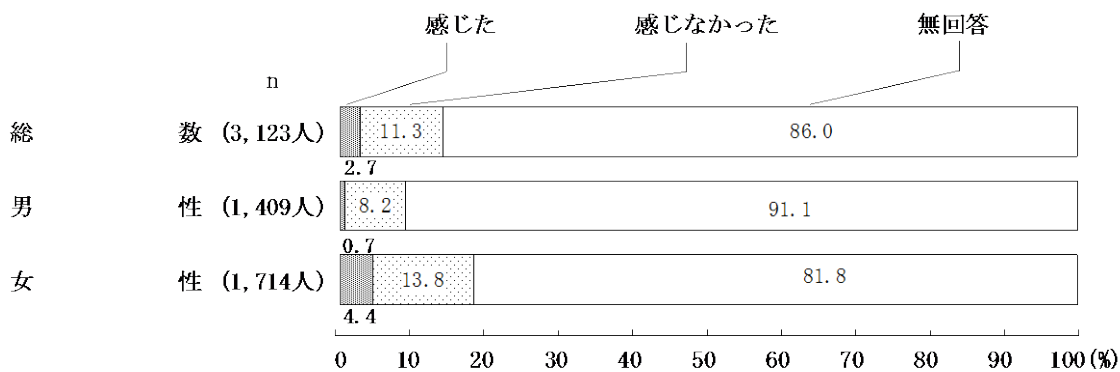
配偶者や恋人から“身体に対する暴行”“恐怖を感じるような脅迫”“性的な行為の強要”といった行為を「何度も」受けたことがある人(133人)にしぼってみると(図4-10)、命の危険を「感じた」(39.8%)ことがある人は4割で、女性では44.4%となっている。

図4-10 命の危険を感じた経験(配偶者暴力被害経験「何度も」ベース)



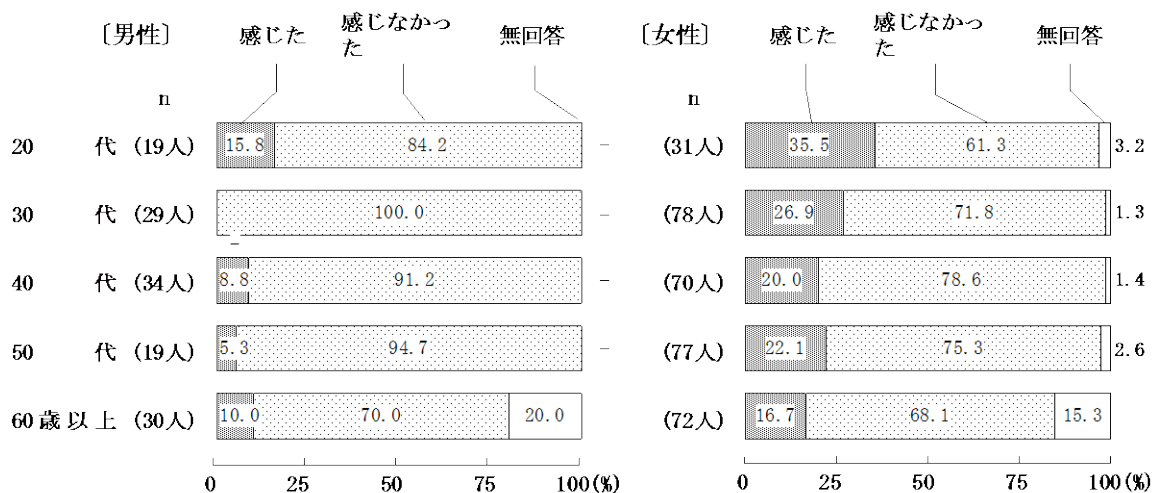
さらに、回答者全体(3,123人)でみると(図4-11)、命の危険を「感じた」人は2.7%で、男性0.7%、女性では4.4%となる。

図4-11 命の危険を感じた経験(回答者全体ベース)



該当者数は小さくなるが性・年齢別にみると（図4-12）、命の危険を「感じた」人は、女性の若年層ほど多くなる傾向がある。

図4-12 命の危険を感じた経験（性・年齢別）



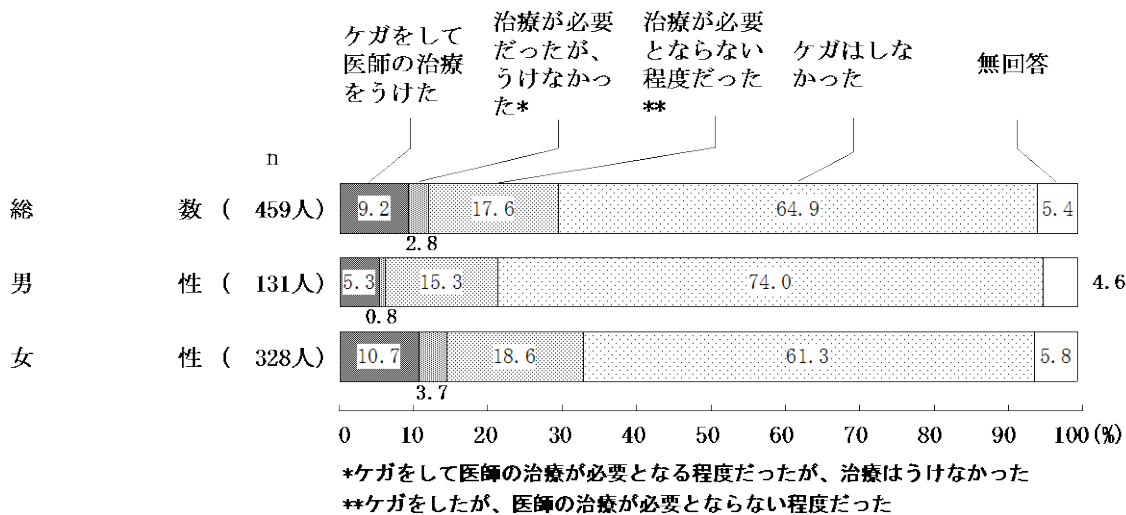
配偶者や恋人からの行為のために、「ケガをして医師の治療を受けた」という人は9.2%で、「ケガをして医師の治療が必要となる程度だったが、治療はうけなかった」人が2.8%おり、1割強は医師の治療を必要とするほどのケガをしている（図4-13）。

「ケガをしたが、医師の治療が必要とならない程度だった」（17.6%）という人は2割弱である。

男女別にみると（図4-13）、「ケガをして医師の治療を受けた」人（男性5.3%、女性10.7%）は、女性が男性を5ポイント上回っており、女性のほうがケガをした人の割合が高い。

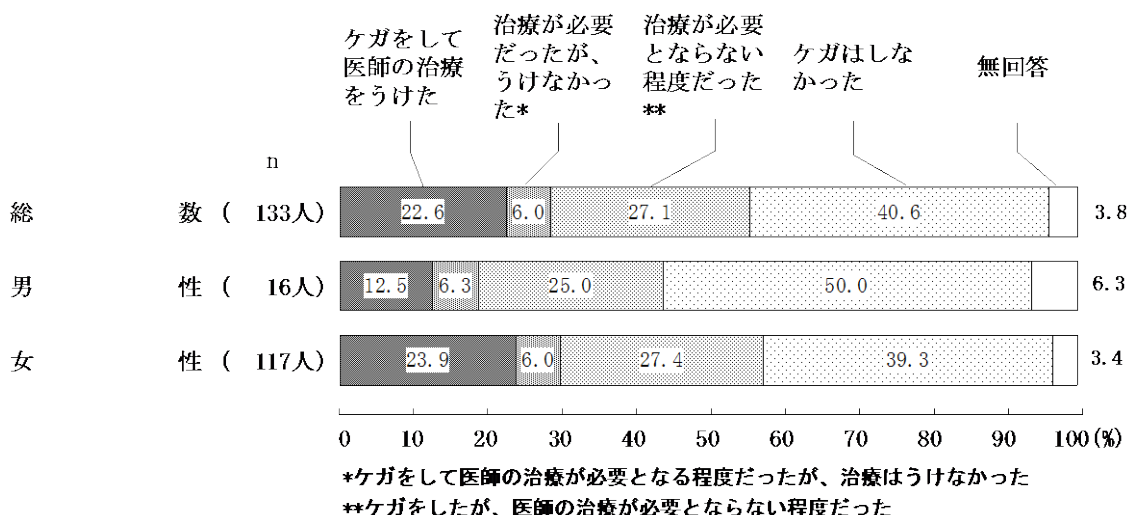
付問3 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、ケガをしたり、医師の治療をうけたりしましたか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

図4-13 暴力行為によるケガ



配偶者暴力を「何度も」受けたことがある人(133人)にしぼってみると(図4-14)、「医師の治療をうけた」人が22.6%、「医師の治療が必要となる程度だったが、治療はうけなかった」人は6.0%で、暴力の頻度が高い人では3割近くが医師の治療を必要とするほどのケガをしている。

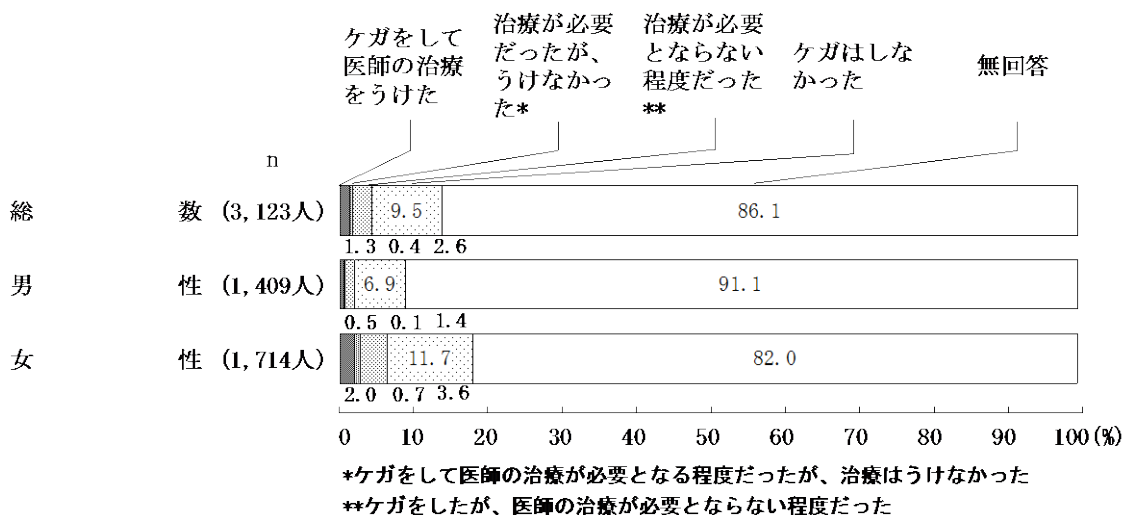
図4-14 暴力行為によるケガ(配偶者暴力被害経験「何度も」ベース)



回答者全体 (3,123 人) でみると (図 4-15)、「医師の治療をうけた」(1.3%) もしくは「医師の治療が必要となる程度だったが、治療はうけなかった」(0.4%) と答えた、医師の治療を必要とするほどのケガをしている人は、1.8%である。また、「ケガをしたが、医師の治療が必要とまらない程度だった」という人は2.6%である。

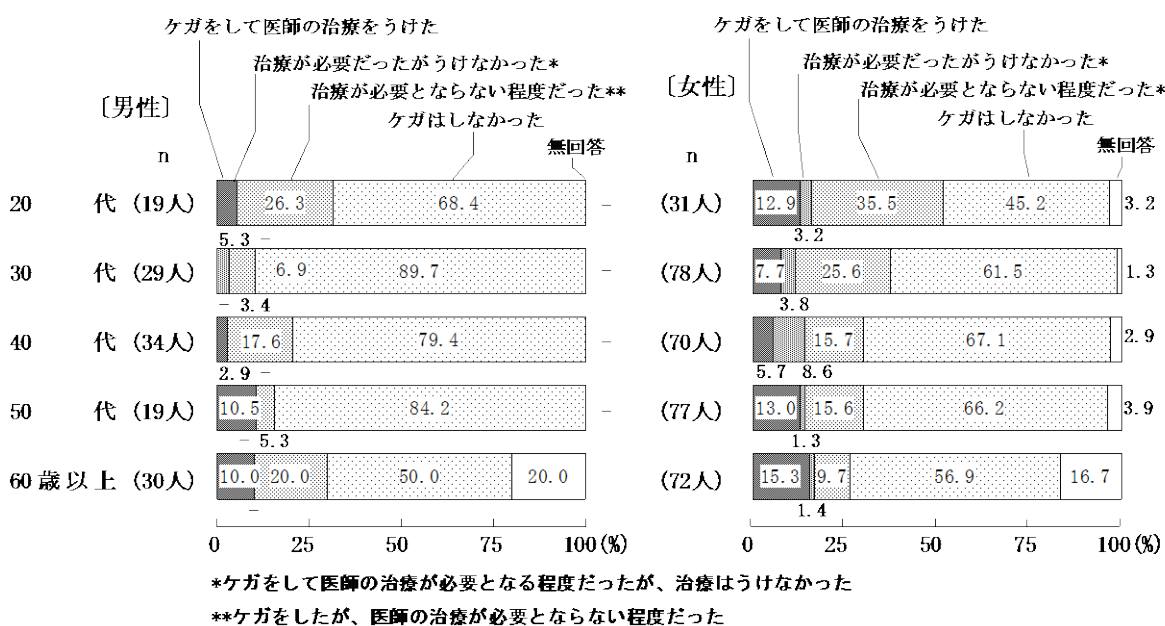
男女別にみると (図 4-15)、男性の0.5%、女性の2.0%が医師の治療を受けている。

図 4-15 暴力行為によるケガ (回答者全体ベース)



性・年齢別にみると (図 4-16)、女性の50代以上で「ケガをして医師の治療をうけた」人が1割を上回っている。

図 4-16 暴力行為によるケガ (性・年齢別)



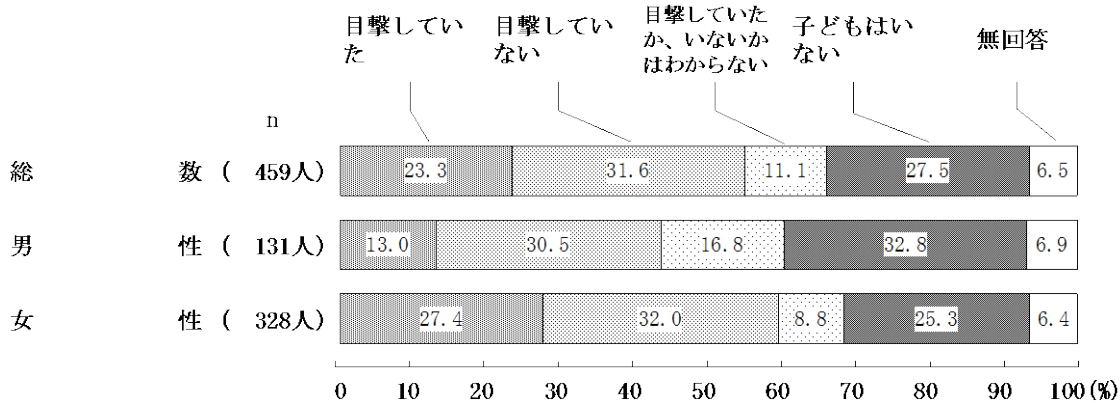
配偶者や恋人からの暴力行為を受けた時に、子どもが目撃していたかどうかを聞いたところ（図4-17）、「目撃していた」という人は23.3%で、「目撃していない」（31.6%）と答えた人が3割強である。

「目撃していたか、いないかはわからない」という人は11.1%であった。

男女別にみると（図4-17）、配偶者や恋人からの暴力行為を子どもが「目撃していた」（男性13.0%、女性27.4%）という人は、男性を女性が14ポイント上回り3割弱である。一方、「目撃していたか、いないかはわからない」（同16.8%、8.8%）という人は、男性が女性を8ポイント上回っている。

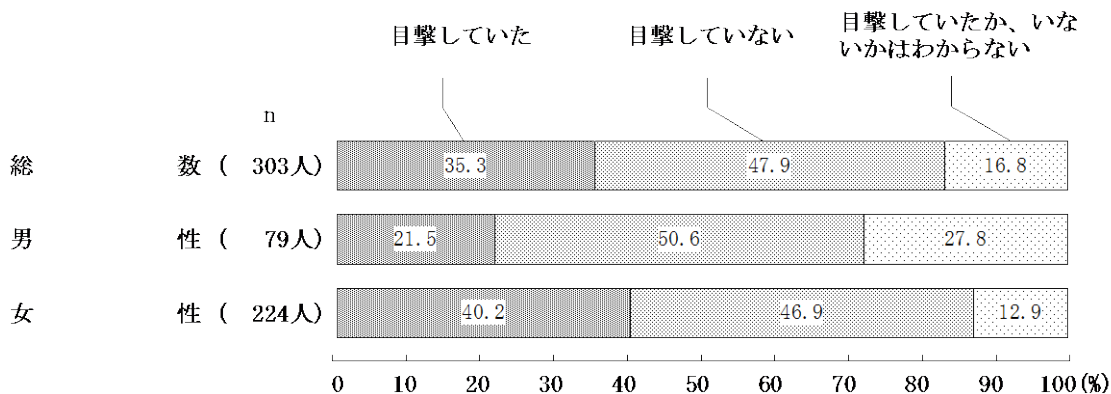
付問4 あなたが、その相手からの行為をうけた時に、あなたのお子さんはそれを目撃していましたか。あてはまる番号に○をつけてください。（○は1つ）

図4-17 子どもによる目撃



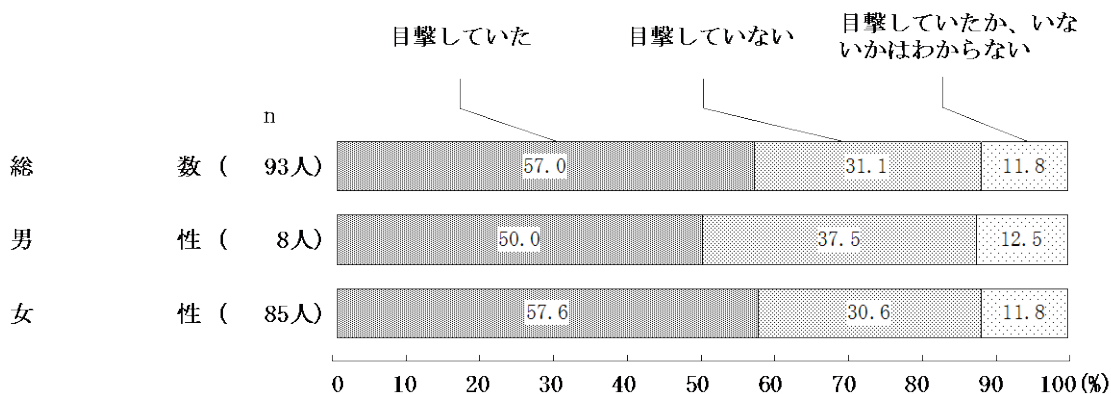
「子どもはいない」もしくは無回答を除いた、配偶者や恋人からの暴力を受けていた当時子どもがいた人（303人）にしぼってみると（図4-18）、子どもが暴力行為を「目撃していた」という人は35.3%で、女性（40.2%）では4割と、男性（21.5%）を19ポイント上回っている。

図4-18 子どもによる目撃（子どもありベース）



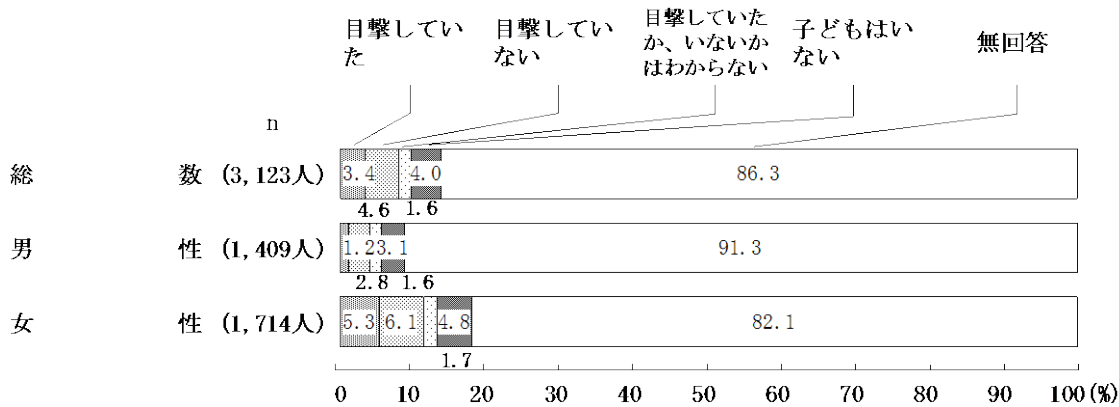
さらに、当時子どもがいた人のうち配偶者暴力を「何度も」受けていた人（93人）についてみると（図4-19）、子どもが「目撃していた」（57.0%）という人は6割近くにのぼる。

図4-19 子どもによる目撃（子どもあり×配偶者暴力被害「何度も」ベース）



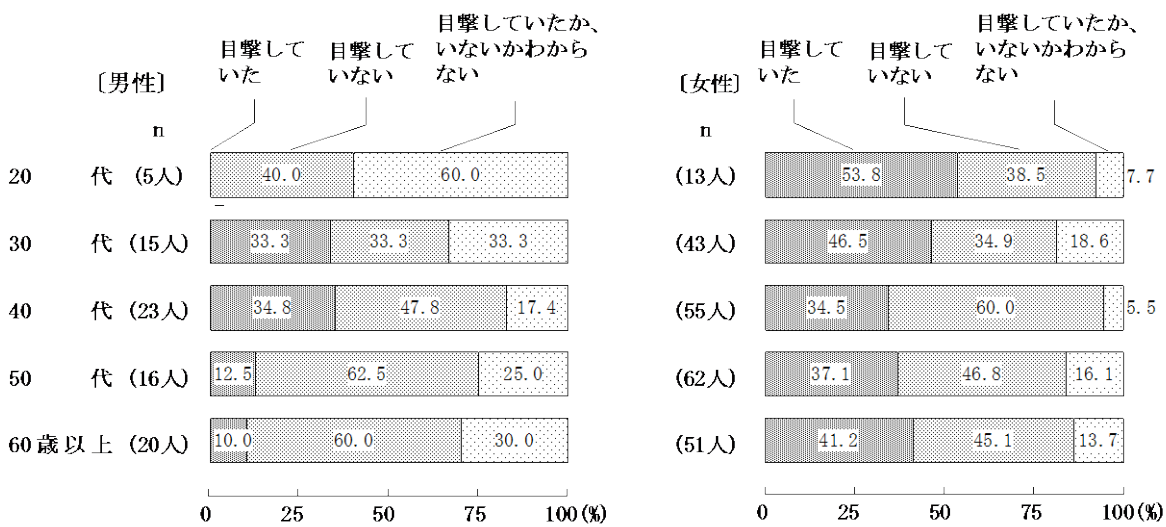
子どもがいなかった人を含め、回答者全体でみると（図4-20）、子どもが配偶者や恋人からの暴力行為を「目撃していた」という人は3.4%で、男性1.2%、女性5.3%となっている。

図4-20 子どもによる目撃（回答者全体ベース）



該当者数は小さくなるが、子どもがいた人について性・年齢別にみると（図4-21）、女性のすべての年齢層で4割弱から5割近い人が、子どもが「目撃していた」と答えている。

図4-21 子どもによる目撃（子どもありベース - 性・年齢別）

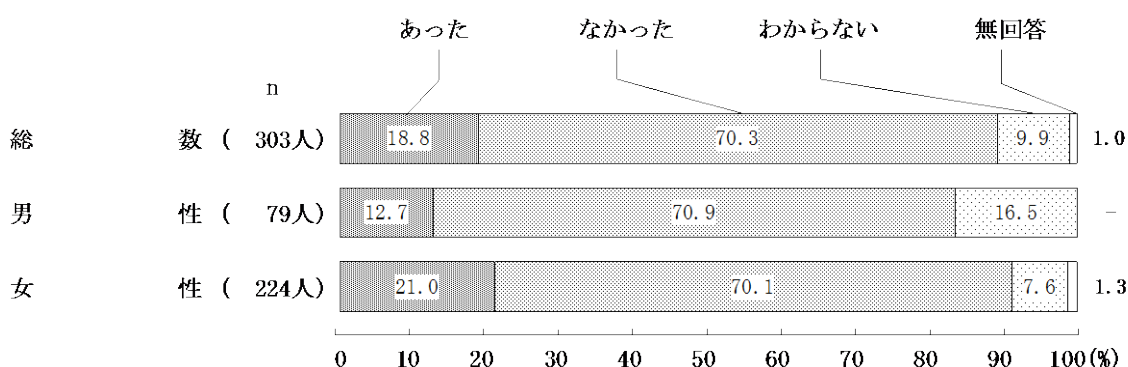


配偶者や恋人から暴力行為を受けていた当時子どもがいた人（303人）に、その相手が子どもに対しても同様な行為をしたことがあったかを聞いたところ（図4-22）、「あった」（18.8%）という人は2割弱である。

男女別にみると（図4-22）、子どもに対して同様な行為をすることが「あった」（男性12.7%、女性21.0%）という人は、女性が2割強で、男性を8ポイント上回っている。

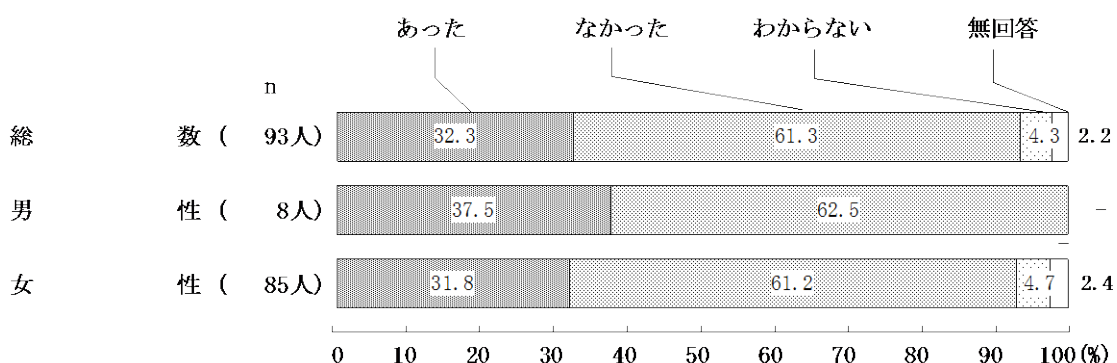
【お子さんがいらっしゃる方にお聞きします。】
 付問5 その相手は、あなたのお子さんに対して、あなたがされていたのと同じような行為をしたことがありましたか。あてはまる番号に○をつけてください。（○は1つ）

図4-22 子どもに対する暴力の有無



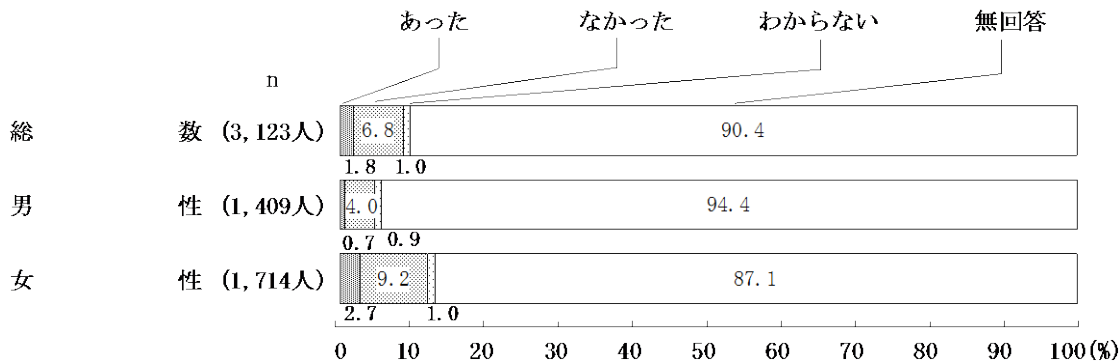
配偶者や恋人からの暴力行為を「何度も」受けていた人（93人）にしぼってみると（図4-23）、ほぼ3人に1人が子どもへの暴力行為も「あった」（32.3%）と答えており、女性では31.8%となっている。

図4-23 子どもに対する暴力の有無（配偶者暴力行為被害「何度も」ベース）



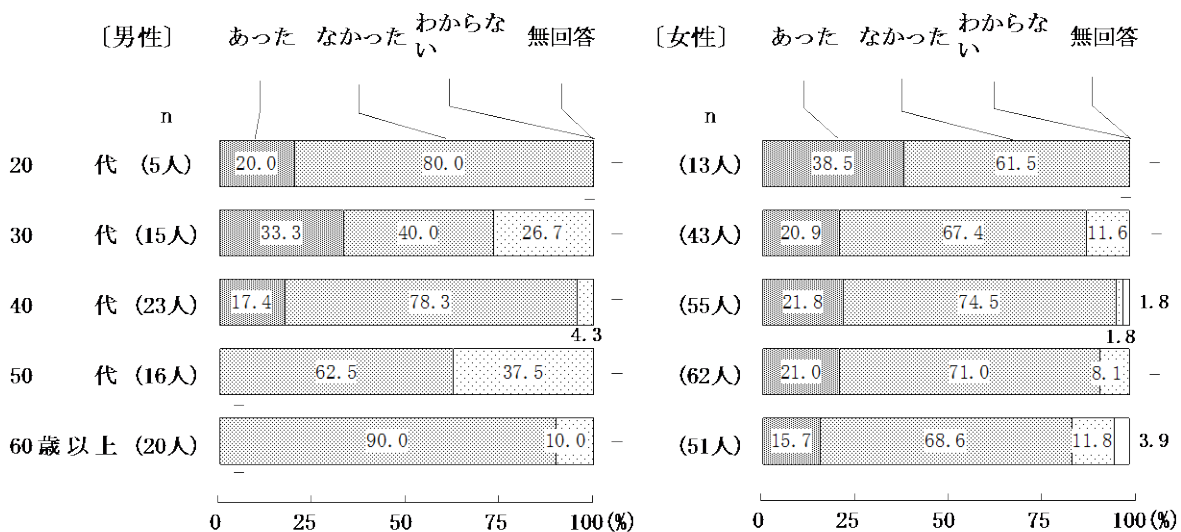
さらに、回答者全体 (3,123人) でみると (図4-24)、子どもへの暴力行為が「あった」という人は1.8%で、男性の0.7%、女性の2.7%となっている。

図4-24 子どもに対する暴力の有無 (回答者全体ベース)



該当者数は小さくなるが性・年齢別にみると (図4-25)、女性の30代から50代で、子どもに対して同様な行為をすることが「あった」という人が2割強と、やや多くなっている。

図4-25 子どもに対する暴力の有無 (性・年齢別)



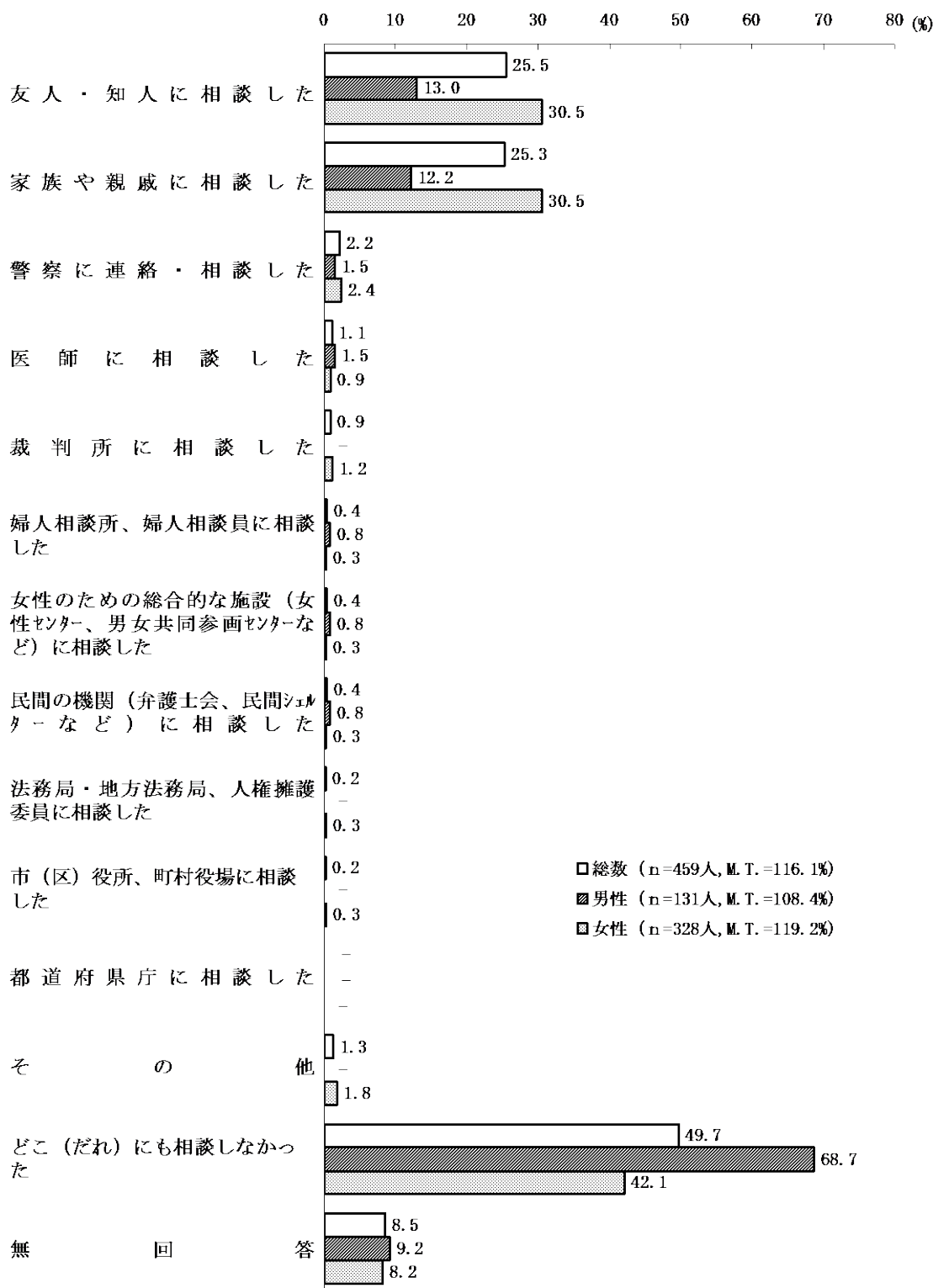
配偶者や恋人からうけた行為についての相談先としては (図4-26)、「友人・知人に相談した」(25.5%)と「家族や親戚に相談した」(25.3%)といった身近な人への相談が2割を上回ってほぼ同率となっているが、その他の相談先はほとんどあげられず、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(49.7%)という人が半数にのぼっている。

男女別にみると (図4-26)、「友人・知人」(男性13.0%、女性30.5%)と「家族や親戚」(同12.2%、30.5%)は、女性で3割があげているが、男性では1割強にとどまっている。

これに対して、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(同68.7%、42.1%)という人は、男性の7割弱にのぼり、女性を27ポイント上回っている。

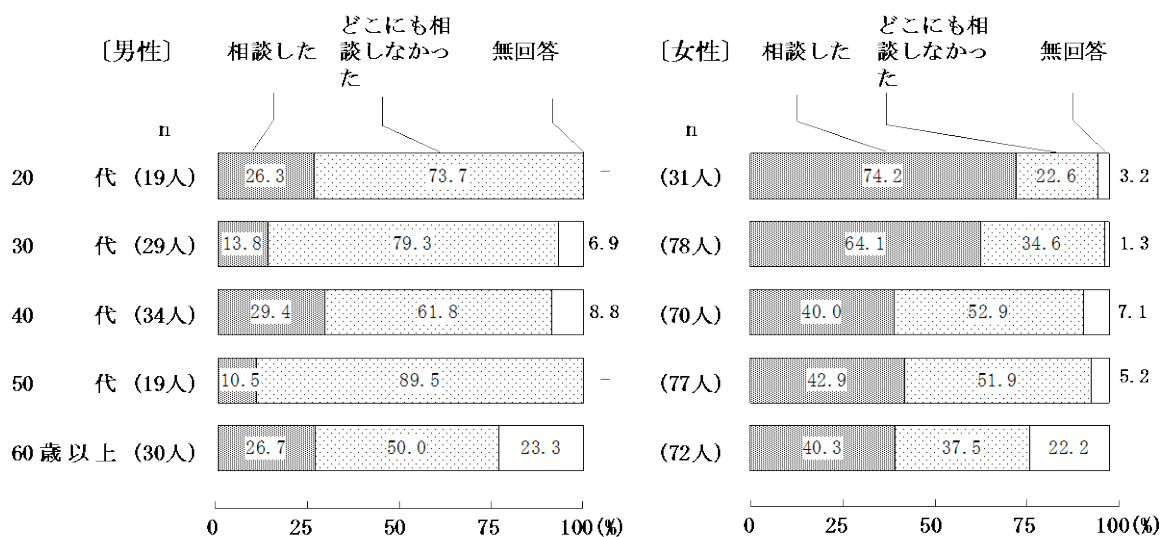
付問6 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人関係にあった者からうけた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。
(〇はいくつでも)

図4-26 配偶者暴力の相談先



相談の有無について性・年齢別にみると（図4-27）、30代の女性ではほぼ3人に2人が、どこ（だれ）かに「相談した」（64.1%）と答えているが、40代以上では「相談した」人は4割である。

図4-27 相談の有無（性・年齢別）



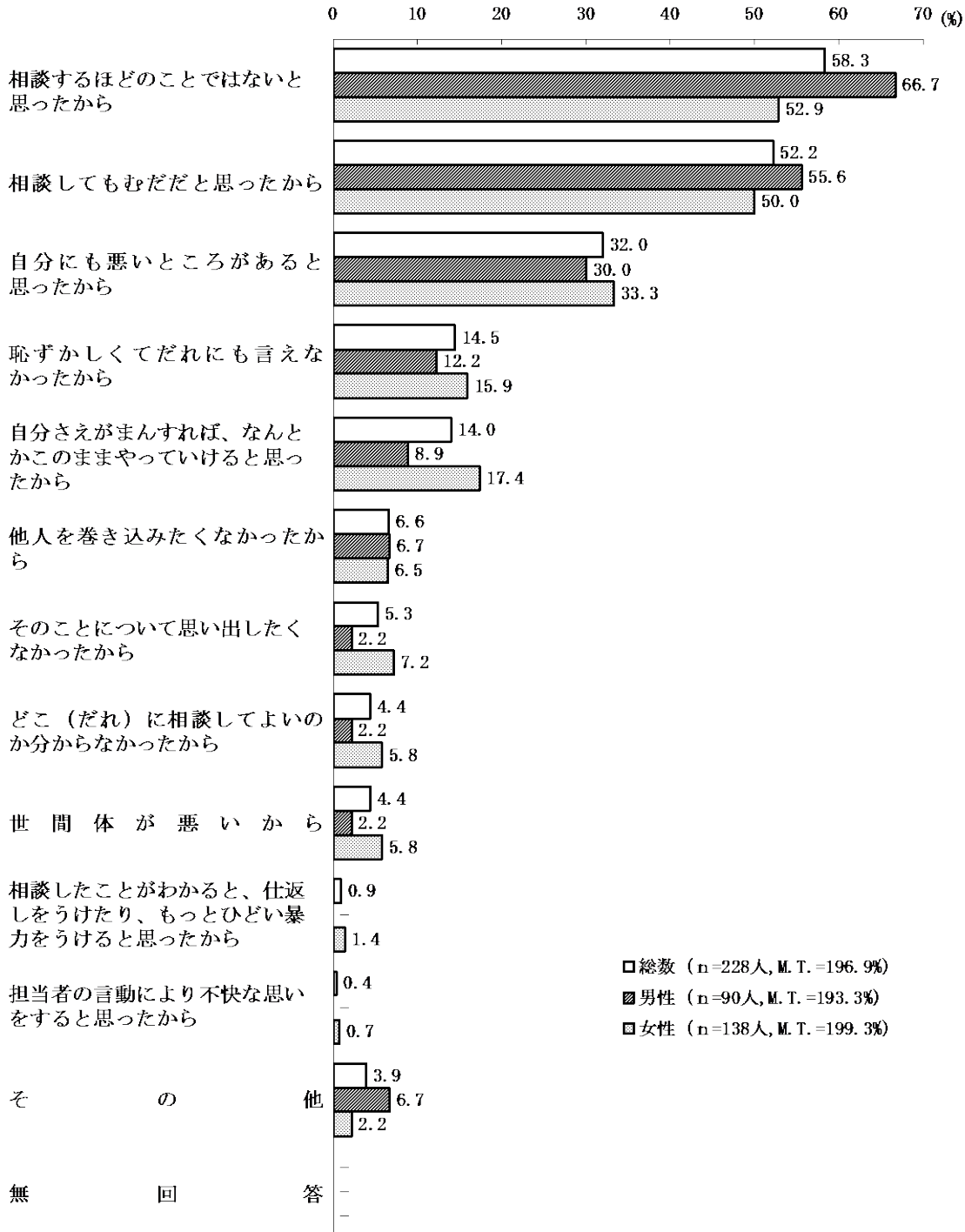
配偶者や恋人からの暴力について、だれ（どこ）にも相談しなかった人（228人）の、相談しない理由としては（図4-28）、「相談するほどのことではないと思ったから」（58.3%）と「相談してもむだだと思ったから」（52.2%）が5割台、「自分にも悪いところがあると思ったから」（32.0%）が3割強となっている。

男女別にみると（図4-28）、「相談するほどのことではないと思ったから」（男性66.7%、女性52.9%）は、男性で7割弱があげており、女性を14ポイント上回っている。また、「相談してもむだだと思ったから」（同55.6%、50.0%）も、男性が女性を6ポイント上回っている。

一方、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（同8.9%、17.4%）は、女性で2割弱があげており、男性を9ポイント上回っている。「そのことについて思い出したくなかったから」（同2.2%、7.2%）も、女性にやや多くあげられている。

【付問6で「13どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。
 付問7 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-28 相談しなかった理由



この1年間に配偶者や恋人からの暴力は、「回数が減ったり、程度が軽くなったりした」(38.8%)という人が4割弱で、1割近い人は「変わらない」(8.5%)と答えている(図4-29)。

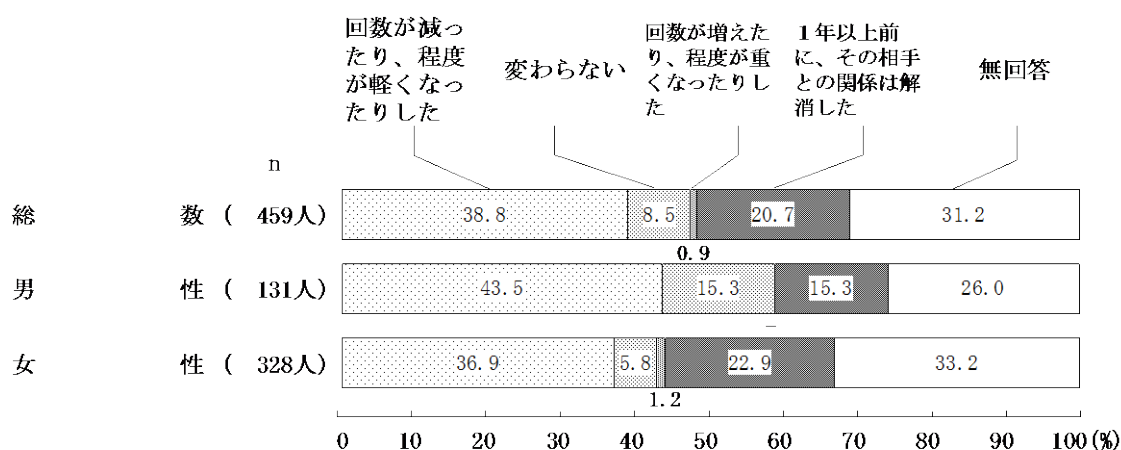
「1年以上前に、その相手との関係は解消した」人は20.7%である。

男女別にみると(図4-29)、「回数が減ったり、程度が軽くなったりした」(男性43.5%、女性36.9%)という人は男性の4割強で、女性を7ポイント上回っている。「変わらない」(同15.3%、5.8%)という人も男性の方が10ポイント多くなっている。

一方、女性では「1年以上前に、その相手との関係は解消した」(同15.3%、22.9%)という人が2割以上で、男性を8ポイント上回っている。

付問8 この1年間の相手からの行為は、以前に比べて何か変化はありましたか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

図4-29 配偶者暴力のこの1年間の変化



この1年間に配偶者や恋人からの暴力の回数が減ったり、程度が軽くなったりしたという人（178人）に暴力が減った理由を聞いたところ（図4-30）、「親しい間柄でも『暴力はいけないことだ』という考えが世の中に広まってきたから」（24.2%）がほぼ4人に1人の割合となっており、大きな男女差もみられない。

最も多くなった「その他」（59.0%）の内容をみると（表4-2）、「話し合い、理解しあうようになった」（105件中24件）、「相手が歳をとった」（同21件）などが主なものとなっている。

【付問8で「1 回数が減ったり、程度が軽くなったりした」と回答した方にお聞きします。】
 付問9 その理由は何だと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。（○は1つ）

図4-30 配偶者暴力が軽減した理由

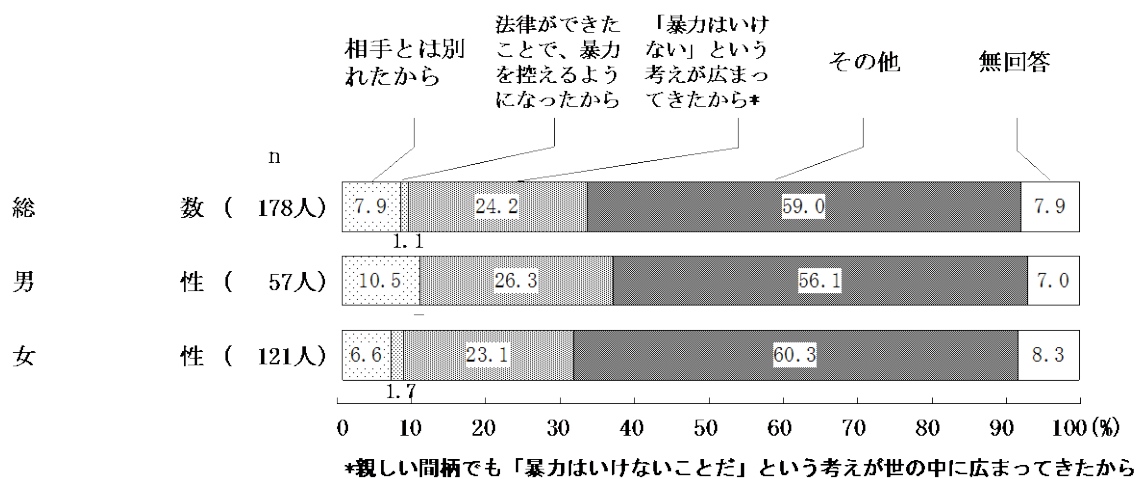


表4-2 配偶者暴力が軽減した理由—その他の内訳

相手と話し合い、理解し合うようになった	24
相手が歳をとったから	21
ケンカをしなくなったから	9
相手を怒らせないようにした	6
その他	28
理由はわからない	6
無記入	11